



profile

●KAORUKO

フラワーアーティスト・ウエディングプロデューサー。日本のトップフラワーアーティストとしてテレビ、女性誌等でもカリスマ的人気。またウエディングプロデューサーとして2万組のオリジナルウエディングを手掛け日本のプライダルシーンをリード。NHKを始め、女性誌・新聞などでは特集記事が組まれる。これまで多くの女優のフラワーコーディネートを手掛ける他、YUMI KATSURAの国内外のショーを1996年～2010年まで担当、日本人初のパリ・オートクチュールコレクション、ローマコレクションのフラワーコーディネートを手掛け成功させた。また世界各国から招聘されフラワーデモンストレーションを通じて文化交流を展開。ハーバード大学では特別講義を行なう。東レPPOテニス（国際大会）においてはシャラポワ選手、杉山愛選手、クルム伊達公子選手を始めトッププレーヤーの勝利のブーケや皇室の方の為のお迎え花を永年担当している。現在、国内・海外拠点を中心にアカデミーレッスン&フラワーデモンストレーションやチャリティー活動を積極的に展開中。著書も多数。

message from

KAORUKO



日々の積み重ねが夢をつなぐ
はしごになってくれる

短大を卒業後、損保会社に就職して23歳で職場結婚。妊娠を機に退職して、子どもが生まれたと同時に、夫の転勤で地方に引っ越しました。

知り合いも誰もいない土地で子育てに専念していると、1日が36時間あると錯覚するほどに、時間がとても長く感じたものです。2人の子どもは可愛く、かけがえのない存在でしたが、毎日判で押したように同じ生活の繰り返し。「私の人生、このままでいいのかしら……」と、焦りを感じる日々が続きました。

OL時代、自分の結婚式のブーケや髪飾りを作るためにフラワーアレンジメントを習っていたこともあり、結婚式に携わる仕事をしたい、マーサ・スチュワートのようなウエディングプロデューサーになりたい……と、いつしか考えるようになりました。しかし地方で子育て中の身では、その夢を叶えるのは困難です。内なる情熱を抑えて、当時はたくさんの本を読んでいた。

そんなあるとき、一冊の本に書いてあった、「思いは叶う」という一節に目が留まりました。この言葉を信じてみよう。たとえ夢が叶わなくても、考えることだけは自由。輝く未来を心に思い描いてみよう——と、気持ちを新たにしました。

驚いたことに、その直後、夫の横浜への転勤が決まったのです。たとえ逆境の中においても、思いを忘れなければ、やがて道はつながる。そう確信した私は、さっそく転勤先の横浜でママ友を集めて、フラワーアレンジメントの教室を始めました。

桂由美先生との出会いで プロフェッショナルの世界へ

「近所のカントリークラブで、ガーデンウエディングをしているみたいよ」。ママ友の言葉をきっかけに、そのカントリークラブに営業に行き、ガーデンウエディングのウエディングプロデューサーとして仕事をしたいと交渉しました。月に1、2回程度でしたが、念願の結婚式プロデュースの仕事に関わることができて、とてもうれしかったことを覚えています。

ウエディングプロデューサーとはいっても、当時の私は素人同然。次第にいろいろな業者からお声がかかり、熱心に仕事をしていましたが、お客様は喜んでくださったけれど大赤字だったり、お手伝いしてくれていたママ友が徐々に離れていってしまったり……多くの挫折を経験しました。

さらに、素人だからと甘く見られて、賃金の未払いやタダ働きが続いてしまった。これにはさすがに落ち込みました。

それでも、一生懸命に仕事をしていると、誰かがその姿をちゃんと見てくださったっているものです。カントリークラブで知り合ったお客様が横浜三越さんを紹介してくださり、フラワーアレンジメントの講座や作品展を開くことになりました。

それがきっかけで、私の憧れの存在であるブライダルファッションデザイナーの桂由美先生と出逢います。先生のパリコレはじめ国内外のブライダルショーのフラワーデザイナーとして起用されるようになり、私は憧れの、しかし非常に厳しいプロフェッショナルの世界に足を踏み入れることになったのです。

死に物狂いで仕事を続けました。実力勝負の世界で生き残るために。少しづつ周りに認められ、評価されるようになった一方で、無名の私をうとましく思った人たちに、良くない噂をいろいろと流されたこともあり。精神的に参ってしまい、一時は、誰とも口をきかずに黙々と仕事をこなすだけのマシーンになろうかとも思い悩みました。

くださっていた。そのことに、大いに勇気づけられました。現在、私自身が多くスタッフを指導する立場になり、なぜ桂先生がああこの私を認めてくださったのか、分かるような気がします。私に才能があったからというよりも、ずっと素直に、真摯に努力し続けたからだと思っています。

例えば、私の代表作「ゆれるブーケ」。ウエディングブーケという固定されて動かないものがほとんどでしたが、あるとき桂先生から「ブーケをもっと揺らして」と依頼されました。ほかのフラワーデザイナーの方々は、「ブーケとはこういうものですか」と断っていたそうです。でも、私はワイヤリングによる揺れ方を研究して、形にするべく何年も試作を続けました。そして、より自然な動きやドレスに合った動きを実現する「ゆれるブーケ」を作り出すことができました。

ブライドにとらわれない 等身大の自分でいよう

桂先生との出会いのほかに、もう一つ、私の生き方を変えたきっかけが、息子の不登校でした。

当時、仕事で張りつめた毎日を送っていた私は、

自分と向き合い反省することで より高いステージに立てる

でも、あるときふと気づきました。仕事上の失敗や人間関係のごたごたがあると、周りに原因を探して「うまくいかないのは○○のせい」などと責任転嫁してばかりいたことに。

そこで、自分の内面を見つめ直して、「私のこんなところがいけなかったんだわ」と、真摯に反省することにしたのです。すると不思議なことに、さまざまなトラブルが解決し始めました。

1つのトラブルが解決すると、次はそれよりも少し高度な挑戦と失敗がやってきます。そこでまた自分の内面を見つめて反省することで、さらにもう一段階成長できることに気づきました。挑戦と失敗、反省を繰り返して、困難が訪れても乗り越えられる精神力と知恵が身につけていったのです。月日を経てしばらく後、あるマスコミ取材をうけて、桂先生が私のことを「真摯な人です」とおっしゃいました。桂先生のもとには、私についての悪意ある噂がたくさん届いていたと思います。それでも桂先生は、私の本質を見極めようとして

思春期の子どもの心に向き合う余裕を完全に失っていたんです。息子のSOSの叫びを目の当たりにして、それまでの母としての自分を反省しました。仕事場の近くに引っ越し、ずっと自分が頑張らなければと気負っていた家事をお手伝いさんに任せ、子どもたちとの時間を大切にしました。

完璧を装うのは、もう止めよう。人の目を気にせず、自分らしくあればいい。息子の不登校をきっかけに、ブライドという鎧を捨てて、「これが等身大の私！」と、ラクになれた気がします。

年月を経ることに、さまざまな学びを得て、私は私なりに進化していくことができました。ブライドを捨てて、ありのままの自分自身を受け入れること。目の前にある物事に、手を抜かずにコツコツと一つずつ取り組んでいくこと。挑戦できる日々や出逢いに感謝をすること……。こうした一つひとつの積み重ねが、今の自分と、叶えたい夢とをつなぐ「はしご」になってくれることを、私はこれまでの人生の中で実感しました。

今の状況に不満を持ち、夢を叶えたいと思ったら、ぜひこれらのことを実践してみてください。楷越ながら、決して順風満々とはいえないキャリアを積んだ私からの、ただ一つのアドバイスです。